

令和 4 (2022) 年度
事 業 計 画 書

(令和 4 (2022) 年 4 月 1 日～令和 5 (2023) 年 3 月 31 日)

公益財団法人日光社寺文化財保存会

令和 4 (2022) 年度 事業計画書 目 次

I	基本方針	1
II	文化財建造物保存修理事業	1
	1. 事業費	
	2. 事業内容	
	3. 報告書作成	
III	文化財建造物及びその周辺の防災施設等整備事業	4
	1. 国宝・重要文化財防災施設整備事業	
	2. 防災設備等維持事業	
	(1) 指定文化財管理事業(防災保守点検)	
	(2) 防災設備の維持	
	(3) 共通消火設備 ホース取替え	
	(4) 本地堂(薬師堂)電気設備改修	
IV	文化財建造物修理に係る技術等に関する資料収集、調査研究事業	5
	1. 加湿温風殺虫処理方法の実用化	
	2. 彩色関係調査研究	
V	文化財建造物の修理技術者養成研修事業	7
	1. 漆塗・彩色技能者養成研修事業	
VI	文化財建造物の保存等に資する普及啓発事業	8
	1. 修理現場の視察・研修の受入れ	
	2. 関係団体主催行事等への参加	
VII	その他この法人の目的を達成するために必要な事業	8
	1. 保存会建物建替事業	
	2. 「平成の大修理」工事記録の作成	

令和 4 (2022) 年度 事業計画

(事業期間 令和 4 (2022) 年 4 月 1 日～令和 5 (2023) 年 3 月 31 日)

I 基本方針

当保存会は、明治 12 年に設立された「保晃会」を前身に、社会情勢や文化財にかかる制度の変化に応じ、組織の改編や名称の変更等を行いながら二社一寺の国宝、重要文化財等の建造物（文化財建造物）の修理を連綿と続けてきた。その先人たちが残してくれたかけがえのないものを、確実に次代に引き継ぐ役割を担っていることの強い自覚と誇りをもって、文化財の文化的価値の維持に努め、国民の文化的向上に寄与するため、次の事業活動を展開する。

なお、主要事業となる修理事業は、毎年、事業量に変動があるため、常に経費の縮減に努めるものとする。

- (1) 文化財建造物の修理事業の着実な推進
- (2) 文化財建造物及びその周辺の防災施設・設備等の適切な維持管理
- (3) 修理工事現場等における安全衛生管理体制の構築及び運用
- (4) 計画的な後継者養成
- (5) 積極的な周知活動

II 文化財建造物保存修理事業（国庫補助事業等）

文化財建造物の所有者である二社一寺と業務委託契約を締結し、「文化財保存事業費関係補助金交付要綱」・「重要文化財（建造物・美術工芸）修理、防災事業費国庫補助要項」に基づいて、以下のとおり実施する。

1. 事業費

(単位：千円)

事業主体 \ 項目		工 事 経 費	耐震対策費	設計監理料	合 計
二荒山神社	現年分	74,800	4,700	20,500	100,000
	繰越分	9,053	0	2,347	11,400
	計	83,853	4,700	22,847	111,400
東 照 宮	現年分	220,867	0	63,133	284,000
	繰越分	8,850	0	19,650	28,500
	計	229,717	0	82,783	312,500
輪 王 寺	現年分	171,300	4,917	54,783	231,000
合 計	現年分	466,967	9,617	138,416	615,000
	繰越分	17,903	0	21,997	39,900
		484,870	9,617	160,413	654,900

※各金額は、千円未満を四捨五入している。

2. 事業概要

対 象 物 件		内 容
二 荒 山 神 社	神輿舎	修理工事 仮設工事：素屋根存置・損料、同維持管理、電気設備、自火 報設備、消火器他備品設置、弥生祭用解体復旧 屋根工事：土居葺、屋根ルーフィング葺直し 木 工 事：補足木材購入、在来材繕い・取替材加工・組立 漆塗工事：黒布着継切粉（半蔀戸）残り 7.6 m ² 黒布着継切粉（棧唐戸等）7.2 m ² 黒上塗直し（棧唐戸等）3.1 m ² 金具工事：残の鍍金墨差し 4.75 m ² 、鍍金 0.07 m ² 煮黒目 0.10 m ² 、焼漆 1.99 m ² 漆箔押墨差 1.79 m ² の再生作業（取付け除く）
	神輿舎・中宮祠拝殿	業務委託 ・中宮祠拝殿における耐震基礎診断 ・神輿舎における耐震補強工事
東 照 宮	東西透塀	仮設工事：素屋根存置損料、同点検・維持管理 素屋根解体・撤去、仮設設備撤去・取外し 漆塗工事：西透塀外側 23 間塗直し 彩色工事：長押 33 間唐油彩色着彩 金具工事：施工残金具再生・補足材作製、現場漆箔押・同墨 差し金具再生、再生金具全取付け 雑 工 事：自動火災報知設備復旧、修理銘札作製取付け 直営漆塗：（彩色下地のみ施工） 直営彩色：西透塀西面潜門以北内側・外側 10 間花狭間胴廻り、 長押、欄間彫刻 9 体、蹴込彫刻 20 体、各彩色改め
	下神庫	仮設工事：素屋根存置損料、同点検・維持管理 木 工 事：棟・鬼廻り破損状況調査、不具合部の補修 漆塗工事：背面軒廻り地・飛檐垂木 朱真搔合直・上塗工程 75.6 m ² 、背面支輪組物廻り 朱真搔合直 81.6 m ² 金具工事：校木、地・飛檐垂木木口金具 三篇鍍金金具再生 延べ 76.0 m ² 雑 工 事：トイレ代替え通路存置損料、同点検・維持管理 直営漆塗：南北両側面 破風廻り黒漆塗延べ 47.0 m ² 、 南面 蔀戸 1 枚黒漆塗 2.55 m ²

	鐘舎	仮設工事：素屋根存置損料、同点検・維持管理 素屋根解体・撤去、仮設設備撤去・取外し 漆塗工事：屋根銅板全面 黒漆塗延べ 25.4 m ² 、 金具工事：漆箔押し、現場漆箔押し、唐油緑青塗 雑工事：自動火災報知設備復旧、修理銘札作製取付け
	共通仮設	作業員休憩所存置損料、光熱水費
輪 王 寺	慈眼堂拝殿	仮設工事：各種仮設の定期点検費・光熱水費 解体工事：大引・床束・貫・柱根継部 家揚工事：屋起し・家揚・家下 基礎工事：柱礎石 12 個・縁束石 13 個 地覆石延べ 17.5 トル・木階下礎石 木工事：補足木材購入 7.1375 m ³ ・床組・縁・敷居 鴨居・弊軸・天井等の木工事すべて完了 屋根工事：向拝部の土居葺 22.412 m ² ・銅瓦繕い補修 154 m ² 避 雷導帯金具・銅瓦葺屋根の全面葺上完了 建具工事：舞良戸補修調整 14 枚 塗装工事：漆代価No.60 黒真掻合直・蔀戸 35.4 m ² 雑工事：木部防腐・防蟻処理 392.15 m ² ・鍛造製品補修・新 調(蝶番・猿・掛金・鉄帯・目鋸・肘壺・等) 直営塗装：内部剥落止彩色の経過観察・維持(消毒・異常箇所 の剥落止)
	護法天堂	仮設工事：各種仮設の定期点検費・光熱水費 解体工事：床組・長押・天井棹縁・壁板
	耐震対策費	護法天堂耐震診断

3. 報告書作成

工事竣工に伴う工事報告書を作成する。

(単位：千円)

項 目 事業主体	対象建造物等	作成費
二荒山神社	本殿、滝尾神社、本宮神社本殿・拝殿	4,000
東 照 宮	陽明門、本殿・石の間・拝殿	6,105
輪 王 寺	大猷院二天門、三仏堂	9,075
計		19,180

Ⅲ 文化財建造物及びその周辺の防災施設等整備事業（補助事業及び自主事業）

1. 国宝・重要文化財等防災施設整備事業

ノートルダム大聖堂(H31.4)や首里城正殿(R1.10)の焼失を受けて制度化された国庫補助事業を活用し、消火設備等の改修や防犯カメラ等の設置を行う。

(1) 事業費（補助率：国 65%）

（単位：千円）

事業主体 \ 項目		工事経費	設計監理料	合計
二荒山神社	現年分	3,289	711	4,000
東照宮	現年分	0	0	0
輪王寺	現年分	82,676	17,324	100,000
	繰越分	15,620	3,280	18,900
	計	98,296	20,604	118,900
合計	現年分	85,965	18,035	104,000
	繰越分	15,620	3,280	18,900
		101,585	21,315	122,900

※設計監理料は 21%を計上
※金額は、千円未満を四捨五入

(2) 事業概要

対象物件		内 容
二荒山神社	本殿ほか 22 棟	(令和元年度～4 年度) 警報設備：炎検知器新規整備 その他設備：感震機能付きブレーカー設置整備
東照宮		(令和 2 年度～3 年度) 予定工事終了
輪王寺	本堂(三仏堂)ほか 37 棟	(令和元年度～4 年度) 警報設備：炎検知器新規整備 消火設備：電動ラインポンプ取替え 防犯設備：防犯カメラ設備の新規設置整備 その他設備：感震機能付きブレーカー設置整備

2. 防災設備維持事業

次の防災設備維持事業を委託及び直轄により実施する。

(1) 指定文化財管理事業（防災保守点検）（国・県費補助事業）

自動火災報知設備、消火設備（放水銃・消火栓・電動ポンプ・ドレンチャー等）の法定点検、避雷設備及び電源引き込み設備（キュービクル）の点検等を専門業者委託により行う。

事業費（委託料補助率：国 24%・県 24%）

（単位：千円）

経費 所有者	委 託 料	業務管理費	合 計	備 考
二荒山神社	1,232	147	1,379	業務管理費は委託料の 12%を計上
東 照 宮	2,343	281	2,624	
輪 王 寺	2,244	269	2,513	
合 計	5,819	697	6,516	

※各金額は、千円未満を切上げ

(2) 防災設備の維持（自主事業）

- ① 自動火災報知設備及び消火設備等の異常時又は故障時には、直ちに所有者と協議し、速やかにその対応措置を行う。この場合、直轄で対応しがたいときは、専門業者等の協力を得て行うものとする。

- ② 導水路（側溝水路）、貯水槽等の水量及び水位の調整を行う。

①・②に関しては、各所有者において予算化措置（50 万）

(3) 共通消火設備 ホース取替え（自主事業）

山内の各所道路脇に設置している消火栓設備において、殆どの消防ホースが設置より 15 年経過した。消防法により製造後 10 年を経過したものは、新品交換又は 3 年毎の耐圧試験の実施が定められており、また、日光消防署における立入り火災予防査察においても、ホースの交換を指摘され、改善が必要となっていることから、既設ホースを処分し全数を交換する。

交換箇所：23 箇所 ホース種類：50A×20m 員数：90 本

事業費：225 万円（二荒山神社負担：75 万、東照宮負担：75 万円、輪王寺負担：75 万円）

(4) 本地堂（薬師堂） 電気設備改修（自主事業）

上新道より埋設配線されている電源ケーブルが老朽化によって絶縁不良となっているため、ケーブルの引替えを行う。（平成 28 年度計画、延期中）

事業費：600 万円（東照宮負担：300 万円、輪王寺負担 300 万円）

IV 文化財建造物修理に係る技術等に関する資料収集、調査研究等事業

1. 加湿温風殺虫処理方法の実用化（自主事業）

- (1) 事業内容：湿度制御温風処理システムの研究・開発（関西電力が経費負担）

このシステムが、国庫補助事業として、文化庁の承認を獲得する為の条件は、以下の 3 ある。

- ①：湿度制御した温風処理システムを使用できる事業体が最低 2 以上必要であること。
- ②：湿度制御した温風処理システムを使用した成功事例が 3 以上必要であること。
- ③：今後、このシステムが実用化・実施となった場合、これまでの研究グルー

プによる指導・検証を得る体制があること。

これらの条件に対応するための方策として、

- ①：新たな事業体として、関西電力グループの株式会社環境テクノスが参画する。
- ②：湿度制御した温風処理システムを使用した第3番目の施行は、二荒山神社神楽殿(チビキノコシバンムシ生息)で、2022年7月1日～9月16日迄の施工を目標とする。経費は株式会社環境テクノスが支出し、保存会は湿度制御した温風処理システム機器一式を無償提供する。

なお、別件として、施工後の足場を活用して、石川工務店の施工で、二荒山神社神楽殿自費修理(屋根葺替・軒・野地・床等の木部修理)を実施する。温風処理の素屋根仮設は、関西電力から石川工務店が請負予定。処理期間中、神楽殿内の弥生祭り仮設資材一式を一時的に保存会事務所で保管。温風処理に先立ち床組を解体搬出(6月)する。

- ③：京都大学の藤井教授をリーダーとして、指導・検証が出来る体制造りの研究会を令和2年度中に発足した。(経費は京都大学の研究費から支出)

これまでの研究データをすべて関西電力に公開した。現在、兵庫県尼崎市内の関西電力施設で、同仕様の試験装置を製作し、公開データの検証を実施中、模倣から新たな改良を行い、2022年の夏、二荒山神社神楽殿の加湿温風殺虫処理を施工する。

- (2) 事業費：駆除効果判定木材(305 mm×305 mm×305 mm角樺材)購入費 230,000 円
木材の中心部に供試虫を納めて、温風処理後、駆除効果を判定するため
：機器類メンテナンス費用 一式 1,000,000 円
貸し出した機器類の事後調整のため

2. 彩色関係調査研究(自主事業)

(1) 置上・下塗用胡粉の代替胡粉に係る研究

① 事業内容

二社一寺の建造物彩色では置上及び下塗に粒子の粗い胡粉(七ツ判胡粉、本代胡粉など)を使用してきたが、近年製造所が廃業した。この胡粉は置上及び漆下地に対する彩色の下塗に適していた。現在当会の在庫(約50 kg。年間使用量は約10 kg)があるうちに、代替え胡粉を選定するための調査研究を令和3年度から3ヶ年計画で実施している。新型コロナ禍により現地視察など実施出来なかった分を次年度に送り込み、令和4年度も継続して調査研究を実施する。

② 事業費（税込み）

（単位：千円）

年 度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	合 計
金 額	中止	100	300	200	600

③ 事業概要

令和 2 年度	中止（コロナ禍による）
令和 3 年度	本代胡粉及び代替え候補の基本物性の把握（聞き取り、粒度分布、原材料同定、資料収集）
令和 4 年度	前年度に選択した代替え候補を使用して彩色手板を作製し、彩色層とした場合の付着力および劣化について、屋外暴露試験と研究者による実験を行う。また、候補品製造所の特定を行い視察し、製造過程を把握する。
令和 5 年度	前年度までに選択した代替え候補の再試験を行い成果の資料化を行う。

V 文化財建造物の修理技術者養成研修事業

1. 漆塗・彩色技能者養成研修事業（国庫補助事業）

選定保存技術に認定されている建造物彩色及び建造物漆塗について、保持団体としてそれらの技能者養成研修と指導者養成研修を次の要領で実施する。

研修 項目	彩色技能者養成研修	漆塗技能者養成研修
目 的	建造物彩色技術を伝承させるための技能者及び指導者を養成する。	日本産漆の特徴と塗装技術を熟知する。
研修内容	技能者養成研修 実技：平彩色 講義：建造物彩色及び技法・材料 見学：講義に関連した建造物見学 講師養成研修 講義：文化財建造物修理の基礎（概念、法規等） 見学：建造物修理現場、材料製造所	中級技能者養成研修 社美協会員は実務経験 6 年以上の技術者で日本産漆を使い史跡などの新建造物の漆塗技術者を中心に研修社堂を使い、日本産漆の塗装技術を体得する。 講師養成研修 保存会職員を中心に日本産漆を掻き取る実習と精製技術を会得する。
研修対象者・人数	技能者養成研修：8 名 （実務経験が 10 年未満） 指導者養成研修：4 名	中級技能者養成研修：5 名 （建造物漆塗技術者） 指導者養成研修：4 名

	(保存会職員が主対象)	(保存会職員が主対象)
研修期間	技能者養成研修 延 16 日間 講師養成研修 延 5 日間	中級研修 延 12 日間 講師養成研修 延 5 日間
事業費	7, 0 7 3 千円	4, 6 6 1 千円
	1 1, 7 3 4 千円	

Ⅵ 文化財建造物の保存等に資する普及啓発事業

1. 修理現場の視察・研修の受入れ（自主事業）

行政機関や公共機関主催による講座や、文化財関係団体等による修理現場の視察・研修依頼については、保存会の業務に支障のない範囲で受入れをし、文化財建造物保存修理の重要性を学習してもらう。

2. 関係団体主催行事等への参加

(1) 日本の技体験フェアへの参加（協賛事業）

文部科学省より選定保存技術に選定されている保存会の建造物漆塗・彩色技術の特殊性、必要性などを紹介するために、文化庁主催の日本の技体験フェア「ふれてみよう！文化財を守り続けてきた匠の技」に積極的に参加する。

(2) 日本うるし掻き技術保存会が行うイベントへの協力

昨年度開催予定であった「日光二社一寺と浄法寺漆」をテーマとした漆塗り体験や漆掻き見学などのイベントに対し会場提供や人材派遣等の協力を行う。

Ⅶ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1. 保存会建物建替事業（自主事業）

(1) 計 画

平成 20 年 7 月に策定した施設整備計画に基づき、「漆塗・彩色作業棟」、「木工作業棟」の建替えが完了し、「金具作業棟」と「事務所棟」の整備が残されていた。事務所棟については、平成 28 年度第 2 回理事会（平成 29 年 3 月 9 日開催）で、旧東照宮宝物館への移転が承認され、吹付アスベスト分析調査及び劣化度調査を平成 29 年度に実施。平成 30 年度に耐震診断及び改修実施設計を実施した。平成 31 年度に改修工事を行い、令和 2 年度に事務所を移転した。

今後、金具棟建設に向けて資金の積み立てを行い、見通しがつき次第、旧事務所の解体及び整地を行いしだい、金具棟の建設を実施する。

(2) 経緯及び事業費

(単位：千円)

	施設名	事業費	内 容
平成 20 年度	漆塗・彩色作業棟	35,700	P 造 2 階建 延べ 463.98 m ²
平成 28 年度	木工作業棟	19,980	P 造平屋建 延べ 178.2 m ²
平成 29 年度	事務所棟(調査)	1,100	アスベスト調査、劣化調査
平成 30 年度	事務所棟(設計)	12,960	耐震診断、改修実施設計
平成 31 年度	事務所棟(工事)	275,300	改修工事
令和 2 年度	事務所棟(移転)	20,000	残工事及び引越し費用
未 定	金具棟(設計・工事)	203,500	旧事務所解体整地後 S 造 2 階建一部平屋 延べ 356.4 m ²
合 計		568,540	

2. 「平成の大修理」工事記録の制作（自主事業）

(1) 目 的

平成 29 年度をもって終了した「日光の建造物修理技術の教材的映像記録」の制作に伴って撮影された映像記録をもとに、「平成の大修理」として各社寺の核心部の建造物の修理工事を行ったことを後世に伝えるため、各社寺の竣工までの過程を修理工事記録として制作する。

(2) 契約相手方及び履行期限

契約相手方：株式会社 日本電波ニュース社

履 行 期 間：平成 30(2018)年 4 月 1 日から令和 4(2022)年 5 月 31 日

委 託 料：20,557,150 円（内消費税相当額 1,812,150 円）

(3) 事業計画

(単位：円)

年 度	事業費（税込み）	内 容
平成 30 年度	3,366,900	輪王寺本堂仮編集版制作
平成 31 年度	3,429,250	二荒山神社本殿仮編集版制作
令和 2 年度	6,858,500	輪王寺本堂完成版製作・東照宮本殿他仮編集
令和 3 年度	3,429,250	二荒山神社本殿完成版制作
令和 4 年度	3,473,250	東照宮本殿本殿他完成版制作 二荒山神社追加 DVD100 枚
計	20,557,150	

(4) 成果品の扱い

90 分程度の DVD 200 本を作成し、修理工事に携わった関係者及び同種工事関係団体等に配布する。